

JRIS

鉄道車両—不乾性パテ

JRIS R 1053 : 2014

(JARI)

平成 26 年 11 月 11 日 制定

日本鉄道車輛工業会規格審査会 審議

(日本鉄道車輛工業会 発行)

日本鉄道車輛工業会規格審査会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	手塚 和彦	株式会社テス
(委員)	潮崎 俊也	国土交通省 鉄道局
	宮本 昌幸	明星大学 名誉教授
	近藤 圭一郎	千葉大学 大学院
	古関 隆章	東京大学 大学院
	岡本 勲	公益財団法人鉄道総合技術研究所
	田口 眞弘	東日本旅客鉄道株式会社
	留岡 正男	東京地下鉄株式会社
	石塚 孝志	日本車輛製造株式会社
	和嶋 武典	株式会社日立製作所
	岡方 義則	新日鐵住金株式会社
(顧問)	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
(事務局)	溝口 正仁	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	田中 裕輔	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	下村 孝	一般社団法人日本鉄道車輛工業会

日本鉄道車輛工業会 基準整備委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	岩滝 雅人	株式会社日立製作所
(委員)	原 克浩	川崎重工業株式会社
	平野 博嗣	日本車輛製造株式会社
	村田 和実	近畿車輛株式会社
	杉山 隆	株式会社総合車両製作所
	向井 政彦	新潟トランス株式会社
	安川 雅夫	三菱重工業株式会社
	島田 富美朗	株式会社日立製作所
	石井 秀明	株式会社東芝
	塩見 省吾	三菱電機株式会社
	梅澤 幸太郎	富士電機株式会社
	星 吉輝	東洋電機製造株式会社
	岡方 義則	新日鐵住金株式会社
	藤原 達雄	ナブテスコ株式会社
	石川 達哉	日本信号株式会社
	鈴木 静男	株式会社京三製作所
(鉄車工委員)	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	田中 裕輔	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	宗 像 政 美	一般社団法人日本鉄道車輛工業会

制 定 : 一般社団法人日本鉄道車輛工業会 会長

掲 示 : 鉄道車両工業 ; 工業会のホームページ : URL ; <http://www.tetsushako.or.jp>

発 行 者 : 一般社団法人日本鉄道車輛工業会

(〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-2 NTT-TEL ; 03-3257-1905 NTT-FAX ; 03-3257-3200)

審 査 : 日本鉄道車輛工業会規格審査会

作成委員会 : 当工業会基準整備委員会

この規格についてのご意見又はご質問は、当工業会にお願いします。

なお、この規格は、原則として5年を経過する日までに確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 特性	2
5 試験	2
5.1 一般	2
5.2 形式試験	2
5.3 出荷試験	2
6 試験方法	3
6.1 耐水性	3
6.2 加熱減量	4
6.3 亀裂	5
6.4 高温付着性	7
6.5 保油性	8
6.6 作業性	9
6.7 付着力	9
6.8 耐燃焼性	11
6.9 絶縁抵抗	11
6.10 安全性データシート	12
7 使用方法	12
7.1 共通	12
7.2 コイルばね座部の防水処理	12
7.3 空気ばね上面板部の防水処理	12
7.4 くし形調整板部の防水処理	13
7.5 使用上の注意	13
8 表示	13
解説	14

まえがき

この規格は、“日本鉄道車輛工業会規格（以下、鉄車工規格という。）の制定に関する規程”の規定に則り“鉄車工規格審査会”の審議を経て、日本鉄道車輛工業会会長が制定したものである。

この規格は、著作権法によって保護される著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。日本鉄道車輛工業会会長及び鉄車工規格審査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JRIS “R シリーズ” 制定の背景

2002（平成 14）年まで作成・整備してきた“鉄車工標準：RIS”は、1969（昭和 44）年代の車両構造の多様化の中で、車両部品の汎用品化（共通使用）、市販品の車両部品への活用などを可能にする活動の一環として、価値分析の手法の活用及びそれぞれの分野のノウハウを取り入れながら、製品仕様、設計標準、作業標準などを標準として定めてきた。

近年、JIS は国際規格との整合化の方針に沿って性能規定化に移行しつつあるが、RIS は鉄道車両業界で必要とする事項を規格として定めているため、従来の RIS の制定方針に沿う標準と新しい JIS の考え方に沿う標準との複数が構成されている。

今後、我が国の進んだ技術をベースにした団体規格が、国内のみならず国外でも活用できるようにするために、2003（平成 15）年 1 月に鉄車工規格の作成・登録を公正にするための手順を定めた。この目的に沿うように、既存の“鉄車工標準：RIS”は、順次“鉄車工規格：JRIS の R シリーズ”への改組と必要な見直しを行って原案をまとめ、あらためて鉄車工審査会の承認を経て制定・登録する作業がスタートした。改組して新規に登録する規格の番号は、従来との関連がわかるように、前身の RIS の番号の前に零（0）を加えて四桁の番号で構成する。

なお、2003 年以降新規作成・登録する“R シリーズ”の規格は、原則として 1001 番以降でグループに区切った番号で登録する。ただし、RIS ベースの規格との関連が強い場合、関連規格に近い番号で登録することがある。

JRIS は、関係する技術分野に応じて五つに区分した体系で構成していて、この規格の“R シリーズ”のほかに、“D”、“E”、“J”及び“W”シリーズがある。

鉄道車両—不乾性パテ

Rolling stock—Non-hardening putty

1 適用範囲

この規格は、鉄道車両に適用するシーリング材に属する油性コーキング材（JRIS R 0144の表 A.3の例示参照）の中で、特に、組立部品の接触隙間部の防水処理に適した不乾性パテ（以下、パテという。）について規定する。

このパテを接触隙間部の防水処理として施工する個所の例は、次による。

- コイルばね座の上面部及び下面部（図 13 参照）
- 空気ばね上面板部（図 14 参照）
- くし（櫛）形調整板部（図 15 参照）

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

- JIS A 5752 金属製建具用ガラスパテ
- JIS E 4001 鉄道車両—用語
- JIS G 3141 冷間圧延鋼板及び鋼帯
- JIS G 3192 熱間圧延形鋼の形状、寸法、質量及びその許容差
- JIS G 3302 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯
- JIS H 4000 アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条
- JIS K 6271 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—体積抵抗率及び表面抵抗率の求め方
- JIS K 8101 エタノール（99.5）（試薬）
- JIS K 8810 1-ブタノール（試薬）
- JIS K 8839 2-プロパノール（試薬）
- JIS K 8858 ベンゼン（試薬）
- JIS K 9005 りん酸（試薬）
- JIS P 3801 ろ紙（化学分析用）
- JIS Z 7253 GHSに基づく科学製品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）
- JRIS R 0144 鉄道車両—シーリング材の適用方法
- JRIS R 0304 鉄道車両—配線ぎ装標準

規格概要につき以下は省略する。